

PAT-NO: JP356012714A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 56012714 A

TITLE: TRANSFORMER FOR INTERMEDIATE FREQUENCY

PUBN-DATE: February 7, 1981

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKASAKI, TAKETOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NIPPON FERRITE LTD	N/A

APPL-NO: JP54087370

APPL-DATE: July 10, 1979

INT-CL (IPC): H01F021/06

US-CL-CURRENT: 29/602.1, 336/83 , 340/870.3

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent the separation at the junction of a base plate and a drum core by providing convex portions on the part of the bottom portion of the drum core which is placed on the base plate.

CONSTITUTION: The drum core 3, wherein stepped convex portions 32 and 33 are formed on the portion of a bottom 31 are provided, is placed on a base plate 1, and fixed by a bonding agent 6. A coil is wound around a drum core 3, and a screw-cap core 5 is placed over the outside of a drum core 3. The threads 59 of said screw-cap core is engaged with threads 89 of a side wall 8 which is fixed to the base plate 1, so that the adjustment is freely performed. Since there are convex portions at the bonding portion, the bonding agent can be well applied, and the bonding strength is enhanced by the hooking action. In this

constitution, the separation of the junction of the base plate and the drum core can be prevented.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑮ 特許出願公開

⑰ 公開特許公報 (A)

昭56-12714

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 01 F 21/06

識別記号

庁内整理番号  
6664-5E

⑯ 公開 昭和56年(1981)2月7日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全2頁)

⑯ 中間周波トランス

⑯ 特 許 願 昭54-87370

⑯ 出 計 願 昭54(1979)7月10日

⑯ 発 明 者 高崎剛年

鳥取市岩倉102日本フエライト  
株式会社鳥取工場内

⑯ 出 計 人 日本フエライト株式会社  
東京都新宿区百人町1-25-1

⑯ 代 理 人 梶原弘二

明細書

発明の名称 中間周波トランス

特許請求の範囲

基板の上にドラムコアを設置し、前記ドラムコアにはコイルを巻繞すると共に、ネジキャップコアをかぶせて構成するトランスにおいて、前記ドラムコアの基板と接する面を、少なくとも一部分に凸部を有する如く形成したことを特徴とする中間周波トランス。

発明の詳細な説明

基板上に設置したドラムコアにコイルを巻繞し、キャップコアをかぶせた型のトランスは、ラジオ、TVの小型 I.F.T 及び発振コイル用の磁心として広く使用されている。

インダクタンスを可変素子として、ドラム形磁心にカップ形磁心を組合せ、インダクタンスの調整はこのカップ形磁心の、「かぶさり加減」を調整することによって行なわれる。IFT の共振周波数はインダクタンスとコンデンサの値で決まる。

従来の中間周波トランスにおいては、上端面を

平面としたプラスチック基板の上に、下端面を平面としたドラムコアを載せて接着剤により固定するのが常であった。

しかしながらこの従来の構造のものにおいては、中間周波トランスとしてラジオ、テレビに組み込んで振動を与えた場合に、基板とドラムコアの接合部が剥離すると云う欠点が生じていた。

本発明は、上記従来技術の欠点を改善した構造の中間周波トランスを提供するものである。

本発明を、以下実施例断面を示す第1図に基づいて更に説明する。第1図において、金属材料製端子2を有するプラスチック基板の上に、下端部32を工夫したドラムコア3を接着材6により固定する。ドラムコア3に巻繞したコイルは、端子2に電気的に接続する。ドラムコア3の外側には、ネジキャップコア5をかぶせる。ネジキャップコア5には、ドライバー溝58を設けて、ネジキャップコア5の外周に設けたネジ59を基板1に固定したプラスチック製側壁8に設けたネジ89と係合させ、調整自在とする。

1  
- 2 -

第2図には、第1図に示したドラム3の下方から見た平面図を示した。第3図は、第2図におけるA-A断面図であり、第4図は、第2図におけるB-B断面図である。

第1図～第4図に示される如く、本実施例に使用したドラムコアの下端面31には、その一部に段違いに構成した凸部32, 33が設けてあるので、基板1との間に接着剤を流し込むと、接着剤のまわりが十分に行なえると共に、ひっかかりがあるので、基板との接着強度は著しく向上する。

第5図は、他の実施例におけるドラムコアの下方より見た平面図、第6図は別の実施例におけるドラムコアの下方より見た平面図、第7図は第6図におけるC-C断面図である。

本発明は、以上述べた如く、いずれの実施例においても示される如く、基板との接着強度が向上し、本発明製品を組み込んだラジオ、TVは、かなりの振動に対しても強い耐久性を有する。

#### 図面の簡単な説明

第1図は、実施例の断面図、第2図は、第1図

のドラムコア部分平面図、第3図は、第2図におけるA-A断面図、第4図は、第2図におけるB-B断面図、第5図は、他の実施例におけるドラムコア部分平面図、第6図は、別の実施例におけるドラムコア部分平面図、第7図は、第6図におけるC-C断面図である。

1：基板、2：端子、3：ドラムコア、5：ネジキャップコア

代理人 梶原 弘二

